

熊本県産地鶏「天草大王」の特性

農業研究センター 畜産研究所 中小家畜部
担当者：松崎正治

研究のねらい

熊本県には5種類の地鶏がいたが、昭和40年代にそれぞれが絶滅または絶滅寸前の状態になった。

そこで、昭和51年から熊本県産地鶏の保存改良事業を開始し、肥後ちゃぼ、久連子鶏、地すり、熊本種は復元並びに増殖に成功した。

しかし、日本最大級の肉用種である天草大王は、その基礎鶏であるランシャンが日本では飼養されなくなっていたことから復元が遅れていたが、平成4年にアメリカからランシャンを輸入することができたので、文献等からその他に天草大王の成立に関わったシャモと熊本コーチンを交配して復元し、高品質肉用鶏生産用の雄系統として利用する。

研究の成果

- 1 文献を基に、ランシャン50%、シャモ25%、熊本コーチン25%の血液割合で交配した基礎鶏を閉鎖群により1年1世代の割合で選抜淘汰を繰り返した結果、平成12年の第7世代で羽色、体重、体型から見て昔の天草大王とほぼ同じになり復元した。
- 2 復元した天草大王の平均体重は、雄が5,720g、雌が4,435g、最大個体の体重は雄が6,700g、雌が5,660gに達し、文献の大型雄の体重1,700~1,800g(6,370~6,750g)に匹敵する大きさとなった。
- 3 天草大王を利用した高品質肉用鶏の生産は、天草大王の雄と現在造成中の産卵率のよい系統の雌とを交配して作出するが、その肉用鶏の能力は12週齢で雄雌平均体重2,700g、飼料摂取量7.2kg、飼料要求率2.66と、優れた成績を示す。

普及上の留意点

- 1 天草大王を雄に利用した交雑種を農家へ供給し、純粋種は分譲しない。
- 2 肉用鶏は、天草大王 × 雌系統 を交配した種卵を、当面(2~3年程度)畜産研究所から試験的に農家等へ供給する。

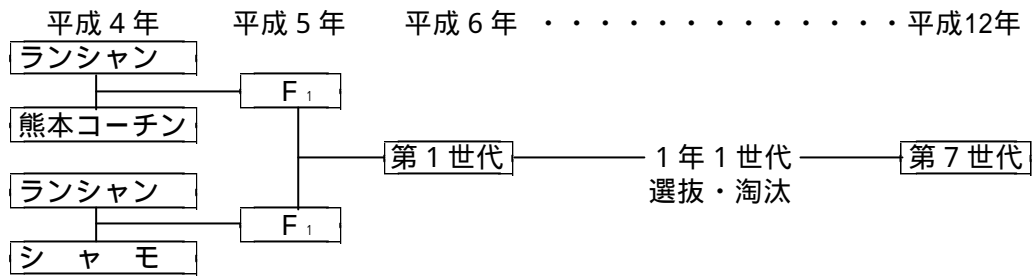


図1 天草大王復元のための交配・選抜法



写真1 絶滅した天草大王の油絵



写真2 復元した天草大王

表1 文献と復元した天草大王の特徴比較

項目	文献による天草大王	復元した天草大王
羽色	濃猩々色	同左 (やや濃淡のバラツキあり)
冠	中程度の単冠	同左
耳朶	鮮赤色	同左
皮膚・脚色	白色	白色と黄色の2系統に分離中
体型	脚が長く、胸が詰まり尾の角度が高い	同左
体重		
雄	記録なし	5,720 g
雌	記録なし	4,435 g
最大体重		
雄	1貫700 ~ 1貫800匁 (6,375 ~ 6,750 g)	6,700 g
雌	記録なし	5,660 g
産卵性		
産卵率	記録なし	50%
平均卵重	記録なし	58 g

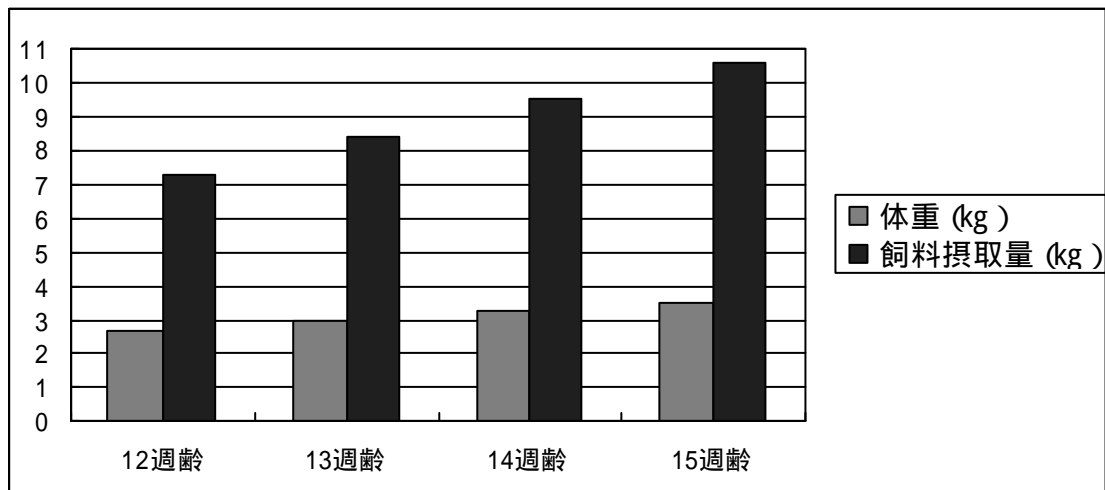


図2 天草大王を利用した肉用鶏の性能